

# 06年度は218件試行

長野県の総合評価

## 工事、業務とも4割「逆転」

長野県は、2006年度の総合評価落札方式の試行状況をまとめた。3月末までに落札決定したのは、工事成績等簡易型（工事）が186件、技術者実績等簡易型（委託業務）が32件で、合計218件だった。このうち、価格で1位以外の者が落札（「逆転」）したのは、工事が80件で、全件数の43・0％を占めている。04・05年度の30・8％から12・2％増加した。委託業務は12件で、全件数の40・6％が「逆転」になっている。

工事で「逆転」した80件のうち、落札者と、価格が1位で落札できなかった者との金額の差は、平均26万0028円。04・05年度の13万8570円より大きくなっている。県では「06年度から価格以外の評価点を増加した効果が表れた」とみている。

また、平均落札率は、工事186件が79・5％で、受注希望型競争入札全体の81・3％をわずかに下回った。委託業務32件も65・6％で、受注希望型全体の67・7％より

やや低くなっている。このほか、工事成績、業務成績の低い業者が落札しにくい傾向にあり、工事実績、技術者実績などのデータをもとめて、落札しやすい傾向にある。